

小型切削機使用による舗装打換工の作業手順

項 目	内 容	留 意 事 項
準備工	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容及び規制内容の確認 作業人員及び車両配置の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 小型切削機始業点検 	<ul style="list-style-type: none"> 指示内容確認・安全打合せ書による確認及びKY活動 作業別安全チェックシートの活用・マニフェストの確認 合材プラント及び廃材処理施設の確認 小型切削機始業点検は、点検要項にそって点検を行う。 点検にて異常に気づいた場合は、使用せずに指定サービス工場で点検を受ける。
小型切削機、ミニバックホウの積降ろし	<ul style="list-style-type: none"> 車庫から小型切削機、ミニバックホウをセルフに積み込む。 現場にて小型切削機、ミニバックホウをセルフから降ろす。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な足場板(ウインチ)の使用
カッター工	<ul style="list-style-type: none"> 舗装カッターに水を入れ、補修箇所端末予定ラインにそって所定の深さで舗装面にカッターを入れる。 機械使用後、路肩に置く場合は、歯止めを設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> センターライン付近の作業は、一般車に注意する。 カッターの深さを決定する時、橋梁上などは舗装厚が薄い所があるので床版を傷つけない様に注意し深さ決定を行う。 冬期は凍結防止の為、水抜きを行う。
切削・はつり工	<ul style="list-style-type: none"> 小型切削機を使用して、規定深さを確認しながら、切削を行う。 端末箇所は、人力にてプレーカー、ハンマードリルではつる。 はつり取りガラは、ミニバックホウを使用してダンプに積み込む。 <p>・機械切削両端部のプレーカーによる研り作業</p> <p>・飛散防止ネット(軽量タイプ)の組立・設置</p> <p>・施工箇所へ移動</p> <p>・ロープ及び土嚢による転倒防止対策実施</p> <p>・はつり終了後は綺麗に清掃する。</p> <p>・深さ検側を行う。</p> <p>■点検項目</p> <p>①ロープ固定 : 控えの位置は適切か、たるみが無い、注意喚起がされているか</p> <p>②土嚢固定 : 設置位置は適切か、設置数量は適切か、土嚢質量(10kg)は適切か</p> <p>③飛散防止ネット : 隙間が無い、破損して無いか、設置位置は適切か</p> <p>■現場での悪天候等による実施判断</p> <p>①前日 : 天気予報により工事担当者が判断</p> <p>②当日 : 天気予報により現場責任者と工事担当者が判断</p> <p>③現場での悪天候等 : 作業中断する場合は、両柱に土嚢を1袋追加する。また中止にあつては、現場責任者から工事担当者へ報告を行い、工事担当者はHCSと調整の上、現場責任者へ中止指示を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人力ではつる時は、飛散防止網を設置し、はつりガラの飛散防止する。 マスク・耳栓・めがね・防振手袋等、作業に合った保護具を使用する。 舗装の悪い部分は、すべて取り除く。 小型切削機、ミニバックホウの作業範囲内立入禁止。 小型切削機、ミニバックホウ、ダンプのバック誘導を必ず行う。 <p>・車線反対側の安全な場所で行い設置する。</p> <p>設置作業ステップ</p> <p>①設置作業はネット両端部を2名で支える。(作業員①②)</p> <p>②控えロープをネットに固定(作業員③④)</p> <p>③設置箇所へ移動(作業員①②③④)</p> <p>④控えロープを車両または防護柵等へ固定。</p> <p>既定重量・数量の土嚢設置(作業員③④) ※図1参照</p> <p>・車線反対側の両柱上部をロープにより車両または防護柵等へ固定する。</p> <p>且つ、同柱の1/3の位置にカラビナ付き土嚢(10kg)を2袋吊す。</p> <p>※移動・撤去は逆の手順で行う。</p> <p>・点検項目①～③に沿って作業従事者全員で安全確認を実施する。</p> <p>※現場巡回、安全パトロールにおいても、必ず安全確認を実施</p> <p>・悪天候とは、強風:10分間の平均風速が毎秒10m以上の風、大雨:降雨量が50mm以上の降雨、大雪:1回の降雪量が25cm以上の積雪をいう。</p>
乳剤塗布	<ul style="list-style-type: none"> はつり面清掃後、乳剤散布機にて乳剤の塗布を行う。切断面等の着きにくい箇所は、刷毛などで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車への飛散防止を確実にを行う。
舗設工	<ul style="list-style-type: none"> トラックにて運搬したアスファルト合材を、レーキ等を使用し均一に敷きならす、この時5cm以上の厚みは、2回打ちとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 工場発送時の温度から-20℃以下の物は、使用しない。 トラックの誘導時は、十分注意をする。
転 圧	<ul style="list-style-type: none"> プレートコンパクター、振動ローラーを使用し規定回数十分踏み固める。 2回打ちの場合も、同様とする。 最終転圧終了後、カッターラインに防水材料を塗布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車に正対し作業を行う。 機械使用後は、水抜きを行い、歯止めをかって路肩に置く。 転圧回数は、試験舗装で決められた回数とする。
養 生	<ul style="list-style-type: none"> 転圧終了後、舗装温度が下がるまで、養生を行う。 出来型検側を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 規制開放温度は、40℃以下で行う。
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうきなどで清掃する。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 はつりかす、合材かすが無い様に、綺麗に清掃する。
小型切削機、ミニバックホウの積降ろし	<ul style="list-style-type: none"> 現場から小型切削機、ミニバックホウをセルフに積み込む。 車庫にて小型切削機、ミニバックホウをセルフから降ろす。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な足場板(ウインチ)の使用 平坦な場所で作業を行う。

作業編成(標準)		機材			資材		安全器具・保護具	
作業責任者	1名	舗装カッター	竹ぼうき	振動コンパクター		ヘルメット		耳栓
作業員	6名	水タンク	乳剤散布機	温度計		反射(自発光)チョッキ		
規制先端監視委員	1名	プレーカー	小型切削機	リボンロッド		黄旗		
現場監視員	1名	コンプレッサー	ミニバックホウ	スタッフ		警笛		
		飛散防止ネット	レーキ			保護メガネ		
		角スコップ	ローラー			防塵マスク		

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者へ報告・相談する。

- 注意事項(共通の指導事項)
- 1.作業に合った保護具の使用を行う。
 - 2.有資格者による、機械作業を行う。
 - 3.一般車への飛散防止は確実にを行う。
 - 4.振動ローラーの取り扱いには、特に注意する。
 - 5.出荷温度、到着温度、敷き均し温度、解放温度の写真を撮り管理を行う。
 - 6.消火器を配置する
 - 7.埋設物の確認を行う。
 - ※センターライン付近の作業には特に注意し、一般車に正対し作業を行う。
 - 8.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
 - 9.一人作業の禁止

